

事業形態・規模

- 一般乗用旅客自動車運送事業
- 名古屋市内に1営業所
- 全従業員:56名(内ドライバー51名)

運転者の健康管理に向けた取組のきっかけ

- ・疾病の対応について、経営トップが運転者に薬の服用状況を確認したところ、「医者に行って薬を飲んでいいからいい」との回答があったが、良好に向かっていないことに疑問を感じた
- ・高齢者は自身が高齢であることを認識しないことや、健診結果を気にしない人が多いことが分かった



経営トップ：「これではいけない」と痛感

経営トップの思い

- ・実は運転者本人が健診結果に基づく医師の指導に、どうしたらよいか困っているのではないかと
- ・健康で安心して乗務してもらいたい
- ・健康は自己責任と言われるが、採用しておいて事業者として自己責任とは言えない
- ・採用するのは社員の責任だが、辞めていくのは社長の責任
- ・健康管理は人財活用の一環

運転者が本当にやれることをやろうという思いから独自の健康管理に取り組む

取り組み

運転者の健康管理を経営トップ自らが率先して実施

- ・事故を引き起こした運転者の健康診断と適性診断の結果に加え、事業者が独自に作成している「健康と事故の関連性一覧表」を活用し、面談時に指導教育を実施し、事故原因を共に考える
- ・毎月、全社員に対して熱中症対策などタイムリーな健康管理をはじめとした研修会を実施
- ・健康に関する多数の文献を通じて、運転者に見合った、疾病を未然に防止するための参考書を作成し、健康管理の資料としている
- ・聞き取った睡眠や食事の状況の結果を基にして、勤務時間外の健康管理も配慮
- ・「成人病等を治すのは医者だけではなく、自らの食事と運動であること」を啓発



項目	内容	備考
健康診断結果	異常なし	
適性診断結果	適性あり	
健康と事故の関連性	関連あり	
研修会実施状況	実施済み	
参考書作成状況	作成済み	
睡眠・食事状況	改善あり	
成人病啓発	実施済み	

社内の変化

【ロコミによる人材の確保】運転者の募集について、今までやってきた会社の取組を運転者がロコミしてくれることで、「この会社、いいな」と人が集まってくる(良好な組織風土の好事例)

【運転者の変化】取組当初は運転者が聞く耳を持たなかったが、取組を継続することで、話を聞くようになったと実感

会社全体で健康管理を実施して運転者が更に健康に、コミュニケーションも更に構築